

## 「主の働き手」

ベタニヤ村の3姉弟は働き手の一家として、主に用いられた人々である。彼らは主イエス一行を喜んでお迎えし、もてなした。そして友人や親族を、主イエスと引き合わせた。主イエスに地域の病人たちを癒して頂き、神の国の話を聞かせたのである。

主イエスが必要とされたのは、行かれる所、どこにでもついて行く直接の弟子だけではない。主イエスは今も、生まれ育った処に住みながら、その地の人々を愛し、救いを伝える働き手を求めておられるのである。キリスト教会はこうした主を愛する一家が、地域に伝道するところから始まっている。教会は主に召し集められた者の集りなのである。

また、救い主のイエス様に日常生活の心の思いや、感情、不満を聞いて頂いている箇所は、聖書の中にはあまり出てこないが、ここでは女性でも、思ったことは恐れなく何でも言える温かさを感じられる。主イエスの側に居たら嬉しい。心が満たされ、何とも言えない平安と慰めがあり、御国のような時が流れていたのではないだろうか。

### [聖書の学び]

#### I、主の働き手の一家 (ルカ 10:38,39)

1、72人の伝道の結果なのか、何かの理由で主イエスの事を知っていたのか、最初に主イエスを迎え入れたのは誰でしょうか？

(ルカ 10:38)

2、主イエスはエルサレム近郊のベタニヤ村のマルター一家に滞在されることが多くなった。3人とも主イエスを喜ばせたいと思った。

※この一家のメンバーの特徴と、各々が思う主イエスが喜ばれるであろうことは何だと思えますか、想像してみましょう。

|          | 性格・特徴              | 各々の考える、主が喜ぶと思うこと                       |
|----------|--------------------|--|
| 長女マルタ    | 活動的、働き者、人の世話するのが好き | 客の接待・主イエス一行の食事の世話をするなら居心地がいいと喜んでもらえる。  |
| 次女マリア    | 従順、思慮深い、決断力がある     | 主はご自分の思いを知って欲しいと願われている。話を聞く→やがて香油を献げる  |
| 長男で弟のラザロ | 体が弱い…姉2人に大事にされている  | 主の話を聞いていただけだったが、後に、死から蘇らされ、主の生きた証人となった |

## Ⅱ、主の働き手の心得

(ルカ 10:39~41)

1、この時は 11 月頃です。4 月頃にエルサレムで十字架の死を遂げるまでわずかです。主イエスは何を願っておられたと思いますか？

①ご自分が真の救い主である事を知ってもらいたい。(ルカ 10:39)

②エルサレムでの死とその意味を知らせたい。

2、主イエスの心を知らないマルタは、どう思っていましたか？

(ルカ 10:40)

3、主イエスはマルタを否定された訳ではありません。主がマルタに言われた意味を考えてみましょう。(ルカ 10:41)

①マルタのいろいろな思い煩い——心が乱れている

②接待も大事だけれど、もっと必要なことは…(ルカ 10:42)

4、この後、マルタはどうしたと思いますか、想像してみましょう。

## Ⅲ、主の働き手の恵み

(ヨハネ 11:11~2:11)

主イエスの働き手には、主から恵みが与えられます。

この 3 人にはどのような恵みが与えられたのでしょうか？

①姉マルタ・・・願いに応えられないと思える試練を超えて、祝福を頂いた。

(ヨハネ 11:40)

②弟ラザロ・・・病気で死んで 4 日目に蘇らされた。(ヨハネ 11:40~45)

\* 生きている間中、主の証し人として用いられた。(ヨハネ 12:2)

③妹マリア・・・主イエスの十字架の直前、高価なナルドの香油を献げた

\* 毎年彼女のしたことは、語られている(マタイ 26:6~13)

\* **ディスカッション** (心を開いて互いに話し合ってみましょう)

Q. 今日の学びについて、思うこと、教えられたことを、分かち合いましょう。